

【チームオレンジとは】 ～国の指針から抜粋～

「認知症施策推進大綱」基本理念である“共生と予防”の具体的な方策の一つとしてチームオレンジを地域ごとに構築することが位置づけられている。

チームオレンジとは「認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の人の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーター（オレンジパートナー）を中心とした支援者をつなぐ仕組み」であるとされている。「地域での支え合い（互助）」「地域で取り組む」ことが基本。

3つの基本条件…①ステップアップ講座修了及び予定のサポーター（オレンジパートナー）で

チームが組まれている。

②認知症の人もチームの一員として参加している。（認知症の人の社会参加）

③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。

※認知症の人の心身の状態によって医療や介護の専門的支援が必要な場合は専門機関と連携していく。

※運用により柔軟に対応可

【オレンジパートナーとは】

「認知症サポーターステップアップ講座」を受講済み又は受講予定の方で認知症の人やその家族の悩み・希望に対し、共にできることを探し、共に地域で暮らしていくことができるように、応援し伴走する人。

自分の意思で、自分のできる範囲で、認知症の本人等と共におこなう任意性のボランティアとして「地域での支え合い（互助）」を行う意思があり、市役所高齢支援課に登録している人。

【多摩市版チームオレンジとは】

認知症の人が社会とのつながりを保ち、地域で生活していくことを目的とする。

地域包括支援センターの認知症地域支援推進員がチームオレンジのコーディネーターとして働きかけ、認知症の人のニーズと認知症サポーター（オレンジパートナー）とをつなぎ、認知症の人の社会参加や自己実現にむけて応援し、伴走するチームづくりを行うものとする。

チームオレンジは、インフォーマルサービスの担い手ではあるが、生活に必須な課題への“支援者”ではなく、認知症の人とチームオレンジは“対等な関係であることを念頭に置くものとする。

➡令和5年度から試行的に実施中であり、今後は要綱制定を予定。

個別・地域の課題から考察したオレンジパートナー（チームオレンジ）活動事例

	個別・地域課題	オレンジパートナーに求めること 共に活動できること	考察・課題
地域での活動 （個別課題を 通して、地域 での活動へ繋 げる）	他の認知症の方と共に、小学生の 見守りをしているが、徐々に支援 が必要になってきている。	認知症の方と共に、小学生の見 守りチームをつくる等。	他市の事例のように、小学生の見守りメンバ ーがオレンジパートナーとなるか、地域のオレン ジパートナーが参加することで、見守りチーム 自体でチームオレンジが結成できる可能性はあ る。
	豊ヶ丘・貝取商店街近くで道に 迷ってしまう方がいる。 ※ この商店街は、「今お店にいても らっています」と家族や包括へ連 絡が出来る＝協力的である。	商店街全体がチームオレンジと なり、帰宅困難者を保護し、商 店街で見守り、連絡ネットワ ークをつくる。	商店街や地域の方々にステップアップ講座を受 けて「オレンジパートナー」になっていただい ければ、自然発生的な商店街全体がチームオレンジ が結成されることが期待できる。
	永山団地で地域活動をしたい方だ が、脳梗塞にて記憶保持難しい。 下半身まひもあり電動車いす使用 中であるため仲間が必要。	一緒に話を聞く方、何か永山を よくするために具体的な活動案 が出てきたら一緒にやる仲間が ほしい。	永山地区の人で、本人の熱意や意思に賛同する 方が入れば可能だが、いきなりマッチングは難 しい。 永 山地区で、他市の事例のように、認知症の方と 共に、小学生の見守りチームをつくることがで きるかもしれない。
認知症関連の 場所・催し ➡ ➡ これらの活動 をきっかけ に、次のス テップとして 1：1の個別 ニーズへの支 援チームにつ ながる可能性 はある。	サポーター養成講座の補助が必 要。	サポーター養成講座の補助（会 場設営、ロールプレイやグルー プワークのサポートなど）	各地域でも、全地域でも、活動できる方を募る ことは可能。
	啓発のイベントの活性化へ向けて サポートがあると助かる。それによ って啓発イベントの参加者を増 やしていきたい。	その他認知症関連イベントへの サポート（認知症月間、オレン ジガーデンプロジェクト等）	不定期に参加可能な方はいる。 パートナーが知り合いの認知症の方を誘って参 加できるとより参加者が増えることも期待でき る。
	現在、認知症カフェが専門スタッ フが中心に企画運営しているが、 会場手伝いや認知症当事者の参加 補助等をしてほしい。	既存の認知症カフェのサポー ト。参加者のよびかけ、送迎等 の補助。	不定期に参加可能な方はいる。また、パート ナーが認知症の方と一緒に参加するとより活性 化される。 現在定期的に参加してくださる方がステップ アップ講座を受講してオレンジパートナーにな る方法もある。
	介護者として話せる「場所」が欲 しいが、当事者を留守番させるこ とは難しい。 介護者・当事者2 名で参加が出来ると良い。	介護者同士で話している時間、 当事者へのサポート。	認知症カフェのような「場所」の活用により、 オレンジパートナーに当事者の方と時間を共有 できる可能はある。
個別で、日時 場所が定期的 な活動	囲碁クラブ、サロン、近トレ、体 操教室、元気塾、体育館、福祉 館、図書館、認知症カフェなど） に通い続けることが難しくなって きた人への、声かけレベル、同行 レベルの支援が必要。	定期的な活動場所は、活動先で 他のスタッフやメンバーなども いるため、オレンジパートナー に負担は少なく、SOSを出しや すい。オレンジパートナーも共 に参加し楽しめる活動のものも ある。	➡個別ニーズに対する1：1のマッチングは困 難。共に参加する催しや、定期的な活動場所 で、顔見知りになり、特性などの理解を互いに している場合に可能。 ➡個別ケースをふまえてその団体に「サポー ター養成講座」「ステップアップ講座」を行っ ていくことは、将来的にも効果的。 「認知症があってもなくてもほっとできる通い の場」への啓発も実施中だが、まだ関心が低い 団体も多い現状あり。